

# アグリトープ

vol. 28 平成30年3月発行



新潟県新潟市亀田郷地区  
(コンテナ栽培のイチジクの様子)



福井県坂井市三里浜砂丘地  
(生育しているショウガの様子(9月頃))

目	優良経営体事例調査結果「亀田郷地区」の概要
	「国営九頭竜川下流地区」営農推進の取組
次	・先進地視察の概要 高知県香美市・香川県まんのう町
	・新規作物導入の栽培実証結果の概要 九頭竜川下流地区
	・九頭竜川下流地区営農講演会の開催 坂井市

# 優良経営体事例調査結果「亀田郷地区」の概要

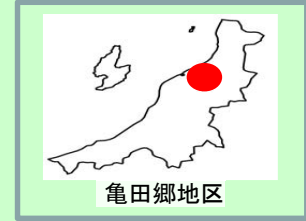
## □調査の趣旨

北陸農政局農地整備課では、国営土地改良事業によって整備された農業生産基盤を活用して、優れた営農を展開している経営体から、経営ノウハウや事業効果の発現状況を聞き取り、その結果を事例として蓄積しています。今回ご紹介する新潟県の亀田郷地区は平成29年度調査に基づくものです。

### 事業概要

事業種：国営かんがい排水事業  
 関係市町：新潟県新潟市（旧新潟市、旧横越町、旧亀田町）  
 受益面積：4,235ha  
 事業期間：平成14年～平成20年  
 事業目的：排水改良  
 主要工事：排水機場1式

位置図（新潟県）



亀田郷地区

## □調査結果の概要

経営体名	経営面積	基幹作物	主な営農改善のポイント
農事組合法人 木津みずほ 生産組合	昭和63年 18ha → 平成28年 45ha	水稲、西洋 梨(ルレク チエ)	★流通・販売の工夫 西洋梨の生産、米の輸出、太陽光発電(ソーラーシェアリング)の導入や地域と協力の農地の集約等も実施している。
有限会社 エエフ カガヤキ	平成19年 20ha → 平成29年 40ha	水稲、野菜 (とうもろこし、 長芋、里芋、 キャベツ等)	★流通・販売の工夫 米を中心に、とうもろこし・長芋・里芋・キャベツなどの生産を行い、販売面では約60軒の近隣農家と提携して直売所を運営するとともに、消費者に対して直接、インターネットなどでの農産物販売を行っている。
農事組合法人 エフ小杉	平成19年 17ha → 平成29年 45ha	水稲、スイー トコーン、 キャベツ、イ チジク、ブド ウ(シャイン マスカット)	★農福連携 水稲栽培の効率化と収益の上がる園芸作物を導入するとともに、米袋への押印作業や野菜の栽培管理を障害者福祉サービス事業所に委託する等、農福連携に積極的に取り組んでいる。
農事組合法人 あしぬま カントリー	平成18年 36ha → 平成29年 34ha (その他に作業受託24ha)	水稲、トウモ ロコシ、里芋、 アロニア	★流通・販売の工夫 ライスセンターの新設、スイートコーン、里芋の栽培、アロニアを使ったジャムやシロップの製造販売にも取り組んでいる。
農事組合法人 ドリーム和田	平成19年 38ha → 平成28年 53ha	水稲、ネギ、 トマト、ピーマ ン(養液栽培)	★栽培技術の確立・向上 米のエコファーマー認証を受け、ライスセンターを新設、ネギの栽培の他、トマト・ピーマンの養液栽培を行っている。

# 「九頭竜川下流地区」 営農推進の取組

## □ 先進地視察の概要 高知県香美市・香川県まんのう町

九頭竜川下流地区で園芸作物導入への機運を高めるため、九頭竜川下流地区の営農者や関係機関担当者ら24名が、平成29年8月24日から8月25日にかけて、「株式会社あさの」の工場の内部、ショウガを栽培しているほ場(高知県香美市)と「JA香川県管内」のアスパラガスのハウスのほ場のほ場、選果場(香川県まんのう町)の先進地視察を実施しました。

「株式会社あさの」の社長等の案内の下、会社の概要とショウガが製品化されるまでの工場内部の視察や実際にショウガを栽培しているほ場で栽培状況について、説明を受け意見交換を行いました。

「JA香川県管内」では、JA香川県担当者の案内の下、アスパラガスのハウスのほ場の中で、高畝式の栽培状況等について説明を受けながら視察し、その後、選果場に場所を移して、選果から出荷までの状況等について、説明を受け意見交換を行いました。

視察参加者からは、ショウガについては、①「農家からの集荷の仕方」②「品質検査は、ほ場にある状態で検査するのか。収穫後に検査するのか。」③「反収や農家からの買い取り値段の決め方」など細かい質問が飛び交いました。また、アスパラガスについては、①「JA香川県で進めている栽培の特色」②「ハウス建設に係る経費や補助」③「センサー付きの選別機があったら栽培面積を拡大できるのに」などといった声が聞かれました。



「株式会社あさの」会議室でショウガについての概要説明



ショウガの栽培ほ場を視察



アスパラガスのハウス内での概要説明と視察状況



JA香川県のアスパラガス選果施設を視察

## □ 新規導入作物の栽培実証結果の概要 九頭竜川下流地区

### (1) アスパラガスの実証結果

アスパラガスは福井市の推奨品目で、株養成に時間を要し、定植後3年で収量が増加、その後10年程度収穫を続けます。しかし、長期に栽培を続けると茎枯病等の病気が増加するため、雨よけ等の施設が必要で、非常に薬剤の散布回数も増加し、耕作者の大きな負担となります。

そのため、養成期間一年で収穫が可能で、その後採りつくして栽培を終了することが可能な新品種を用いて、アスパラガスの単年どり栽培を行うこととし、採りつきり栽培になることで雨よけ等の初期投資を抑え、加えてマルチとパイプラインの水で収量の安定化と除草、農薬散布の負担を減らす栽培を試みることにしたものです。

定植は、4月から5月に行い、その後、株養成を一年行い翌年の3月末から5月末に収穫を行います。収穫後は水田にすき込んで単年どり栽培を終了します。この実証調査の結果については、収穫終了後となります。



定植時の様子(左:対照区 右:試験区)



8月27日時点のほ場の様子

## (2) ショウガの実証結果

ショウガについては、平成28年度にパイプラインによる安定した水源を活用し、新たな露地野菜として水分を多く必要とするショウガの栽培実証を行い、三里浜砂丘地で栽培可能であることが実証されました。

今年度は、三里浜砂丘地の新たな特産品目としてショウガの生産拡大を図るため、新規生産者による試験栽培の規模を拡大し、生産者と連携した栽培実証と栽培技術の向上、良質な種ショウガを自給できる体制を整えるため、収穫したショウガを保存し、次年度の種ショウガとして確保することを目的に調査を行いました。

この結果、パイプライン用水によるかん水で生育は確保できたものの、スプリンクラーでの頭上かん水となるため、高温多湿条件で発生が多くなる根茎腐敗病の発生リスクが高まることとなりました。この実証調査の結果については、平成30年4月以降の種ショウガの品質確認後となります。



収穫されたショウガ



収穫されたショウガと種ショウガ

## □ 九頭竜川下流地区営農推進講演会の開催 坂井市

平成29年12月13日に坂井市(ユリーム春江)交流ホールにおいて、平成29年度九頭竜川下流地区営農推進講演会「パイプラインがつなぐ、輝く未来！」を開催し、新規導入作物の栽培実証の結果、先進地視察概要の報告に引き続き、秋田県能代市「能代グリーンファーム常盤」代表の幸坂登氏と神奈川県横浜市「横浜丸中ホーディングス株式会社」常務取締役の岡田貴浩氏から講演していただきました。なお、当日は112名(農業者24名、関係機関88名)が参加しました。

講演では、幸坂氏からは「水田を利用した機械化体系による大規模野菜栽培への取組」と題して、園芸メガ団地構想に基づき、ほ場整備事業(県営)により整備された大区画水田での大規模白ねぎ栽培の取組についての話をしていただき、岡田氏からは「加工・業務用野菜についての取組と課題」と題して、実需者側(市場関係者)からの立場で、実際の生産地から取引までに至る取組事例を交えた話をしていただきました。

### □ 参加者からの主な質問

農事組合法人に対しては、水田で白ねぎ栽培する際の排水対策はどの様になっているのか。安定的に収量を確保するための対策はどの様になっているのか。また、実際に水田での白ねぎ栽培を考えている者からは、栽培技術の詳細についての質問があり、幸坂代表からは営農者として包み隠さない素直な回答がなされました。

さらに、実需者側には生産者が収穫してから加工・納品業者に販売する際の費用や規格外(はね品)の取り扱いについての質問があり、岡田氏からは加工業者ごとに用途によって様々な考え方を持っていることや近隣の業者と直接話し合うことなどのアドバイスがなされました。



農事組合法人グリーンファーム常盤  
生産者側講演者 幸坂 登氏



横浜丸中ホーディングス株式会社  
実需者側講演者 岡田 貴浩氏

<編集発行> 北陸農政局国営土地改良事業地区営農推進検討連絡会

事務局: 農村振興部農地整備課

〒 920-8566 金沢市広坂2-2-60 TEL 076-263-2161 (内線3454)